



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 83 号

2010.12.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

お知らせ

- お詫びと訂正
- 冬季閉館について
- 活動報告について

活動報告

- ゴギの観察会
- 紅葉と冬芽の観察会
- 千町原の草刈り 秋

観察会案内

- 巣箱・かんじき作り

お し ら せ

● お詫びと訂正

苅尾電波塔 82 号の「サツキマス保全の試み」の報告の中で、間違いがありました。お詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正します。

【正】降湖するサツキマスの性比は、オス：メス = 2:8 だそうです。最終的には 24 匹を捕獲し、そのうち 3 匹がオスでした。

【誤】サツキマスの性比は、オス：メス = 8:2 だそうです。最終的には 24 匹を捕獲し、そのうち 3 匹がメスでした。

● 冬季閉館について

高原の自然館は 11 月 26 日より冬季閉館となります。次回開館は 4 月 25 日です。来シーズンもよろしくお願ひします。冬季連絡先は下記の通りです。

北広島町芸北支所
電話番号：0826-35-0114

● 活動報告について

11 月 14 日に行われた「八幡高原の野鳥観察会」の活動報告は、都合により次号にて報告させていただきます。

観 察 会 報 告

●ゴギの観察会

開催日時:2010年11月7日(日)9:30

講師:内藤順一

曇り空の中、10名の参加者が大朝公民館に集合しました。ゴギの観察会は大朝地区では今回が初めてです。どんな観察会になるのかわくわくしながら、まずは室内で内藤先生からお話を聞きました。ゴギとは中国山地の源流に生息するイワナ類で、体に有する瞳大の白い斑紋が頭部まであるのが特長です。資料を見ながら、ゴギの発見、他のイワナ類との区別、名前の由来などのお話を聞きました。続いて、生息地域の様子や、産卵の様子をビデオに撮ってある映像を見ながら、詳しく解説していただきました。メスが産卵床を作るため、流れの淀むような場所を選び、尾びれを使って懸命に砂などを取り除いている場面があり、産卵の準備の様子が大変よくわかりました。オスとペアになってからも、産卵までに長い時間をかけるそうで、内藤先生の撮影は時には10時間にも及ぶと聞きました。そのご苦労のおかげで、産卵の映像も見る事ができました。メスが産卵床に尻ビレを埋め込むようにして産卵し、オスがそれに合わせて放精します。オスが産卵を促すために何度も側に行っては離れ・・・を繰り返していたのが印象的でした。メスは産卵が終わるとその周りを体をくねらせるようにして泳ぐ「舞の行動」が始まります。現地でもこの様子を見ることができ、幸運でした。知識を得た後は、実際のゴギを観察にいきました。紅葉がピークを迎え、とても気持ちのいい空気の中、ゴギに出会うことができました。ゴギが生息できる環境は限られており、小溪流の中でも小さな淀みがあること、ゴギのえさとなる昆虫の棲む広葉樹の森が必要であることと教えていただきました。ゴギが生息していることは、生き物の多様性があるという証だとわかりました。参加者から質問があり、ゴギの寿命はほぼ4年であること、オスが川をパトロールしてメスを探ること、産卵後オスは次のメスを探しに行くことなど、ゴギの生態を詳しく知ることができ、大変有意義な観察会となりました。「幻の魚ゴギ」といわれるゆえんにも触れることができました。[このやよい]



内藤先生のお話を資料を見ながらじっくりと聞く。



調査中の体験や苦労話など、内藤先生ならではのエピソードもあり興味深かった。



内藤先生作成の資料。種名の考察や地方名などがあげられておりおもしろい。



「あ、おるおる！」と静かに興奮.



取材中の NHK の撮影クルーが水中カメラでゴギを撮影中. 水中での様子がよくわかった.



そおっと観察. 肉眼でも見えるくらい近く, 観察にはぴったりの場所だった.



ゴギの生息環境は小さな溪流で, 小さな淀みがあるところ.

【みなさんの印象に残った物】

「ゴギの産卵が見れた事」「ゴギがみれてうれしかった」「ゴギがねばり強くペアで泳いでいる姿」「ゴギの舞が見れたこと」「ゴギを自分の目で見れたこと」「ビデオでなく生でゴギの姿, 舞, 生息環境が見れたこと」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「ペアが協力する様子が大変よかったです. 内藤先生のお話もよかったです.」「めずらしい魚がみれてうれしかった」「ちょっとした流れでも, ゴギの生存をちゃんと地域ごとに守っていく事の大切を改めて感じた」「長い時間をかけて産卵床をつくること. 子孫を残すのは大変なんだなあと思いました.」「このような機会は多くないので大変よかったです.」「内藤先生のお話がとてもわかりやすく, よかったです. ありがとうございます.」

観 察 会 報 告

●紅葉と冬芽の観察会

開催日時:2010年11月14日(日)13:30

講師:斎藤隆登

午前の観察会から引き続きの方も含め17名の参加です。まず斎藤先生が作成された広島県産落葉樹木冬芽図譜を資料としていただき、冬芽を観察する際に参考になる図鑑の紹介していただきました。事前に何種類かの冬芽の枝を持参されていて、それを見ながら説明を受けました。それから、「葉が付いているとそれに頼ってしまうので、すでに落葉している苅尾に登りましょう」とお話しされ、現地へ移動しました。そこでは、次のようなお話を聞きました。「ウリハダカエデの枝の成長と樹皮の特徴」「リョウブの枝ぶりや日当たりなど条件によるその後の成長」「タンナサワフタギの樹皮は縦に裂け目があり、冬芽はつつつしている事」「ハクウンボクは2段構えの芽で樹皮がはがれる事」「ミズキは樹形と赤い枝が特徴的、長枝短枝が有る」「ノリウツギは葉痕が三角で対生、時には輪生する」「コシアブラは維管束痕(いかんそくこん)が11個以上で幹は白っぽい」また参加者の方からは経木帽子の材料として出荷されていたことも聞きました。キブシには花芽ができていて、「春一番にかんざしのように黄色にぶらさがって咲く花だけど・・・なんだっけ?」と、皆さんわいわい話しながら観察しました。資料によるとマタタビは冬芽がちよつとのぞいている、資料にはないけれどサルナシはのぞいていない(めりこんで見える)という事でこちらはサルナシとわかりました。皆さんやさしい気持ちで木の芽の観察をしました。先生の話し方からも大切に観察されている様子うかがえて、冬の植物の楽しみ方はなかなか奥が深く、興味深い観察会となりました。[やなぎざきのみこ]



斎藤先生作の図譜を資料として配布された。



冬芽を勉強する際に役立つ図鑑の紹介。



実物をみながらコナラ・ミズナラの説明があった。



芽鱗痕（がりんこん）から木の成長年を考える。



ブナとイヌブナ，イヌシデ・クマシデとアカシデ，
タカノツメとコシアブラ，マルバトネリコ，ツ
ノハシバミなど



キブシ，すでに花芽がぶら下がっている。

【みなさんの印象に残った物】

「植物の奥深さをおもった」「樹たちがそれぞれの植生を持っているのに改めて感心しました」「サワフタギとタンナサワフタギが冬芽で分かること.」「コシアブラとタカノツメの冬芽の見分け方が分かりました.」「冬芽のいろいろな形・色があるのがおもしろかった」「クマシデ，イヌシデの違いがよくわかりました」「新しい樹木を知った（自分に）」「冬芽は難しいがやりがいがありそう」「ブナの冬芽とクマシデの冬芽を見分けられた事」「ウリハダカエデ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「冬も植物を楽しめそうです.」「説明が分かりやすく，いろいろな樹木の冬芽を観察することができて楽しかったです.」「楽しかったです.」「冬芽のプリントが役立ちました」「知らない冬芽も少しわかりました」「雰囲気が良かった」「冬芽から，その木の成長がわかることがすばらしい」「環境によって成長に違いがでる事がよくわかり納得しました.」



落ちた枝を拾って冬芽を確認する。

観 察 会 報 告

●千町原の草刈り 秋

開催日時:2010年11月23日(火・祝) 8:00

2005年から始められた千町原の草刈りも今回で7回目。89名の参加者が集まりました。前日まで雨でお天気が心配されましたがなんとか雨は上がり、安堵しました。朝早くにも関わらず、地元から、広島県内、島根県、山口県、岡山県と遠方からの参加もあり、とても心強いメンバーで草刈りをしました。

今回は恒例のキッズプログラムに加え、千町原の草資源がどれくらいあるのかという調査班も編成され、盛りだくさんな内容です。3班にわかれ、防火帯作り、木の伐採、ヨシ原の草刈りと作業を進めます。顔なじみも増え、班の中での交流も生まれているようでした。

白川学芸員からの草刈りの必要性や作業の進め方の話を聞く参加者の表情は真剣でした。安全第一に、そして楽しく継続できる草刈りが目標です。その意識を高めていざ作業に入ります。まずは機械隊が入り、機械が遠ざかったところで草集め隊が作業に入ります。年々その連携がうまくなっている気がして、頼もしく感じます。

休憩時に飲みものを運ぶ係を担当していただいた方のフットワークの軽さにも驚きました。また、今回も荒木カメラマン、越岡カメラマンが作業の様子やみなさんの表情をさまざまな角度から撮ってくださいました。民宿のお母さんたちは前日から仕込みをして、当日の昼食を準備してくださいました。八幡の坂井さんが作ったはらっぱ一米とはらっぱ一大根を使った炊き込みごはん、豚汁、大根の炊いたん、お漬け物とたっぷりおいしいものをいただきました。

昼からも作業に戻り、汗を流しました。終わってみると数時間の作業でこんなに進んだのかと驚きうれしくなるような光景が広がっていました。人の力ってすごいですね。最後に全員で記念写真を撮り、解散となりました。アンケートも実施し、次につながるご意見もたくさんいただきました。ご協力ありがとうございます。

八幡の前さんが開催してくださった仕上げもあり、ラム肉の焼き肉をいただきました。ラム肉もそこから生まれる会話も大変にごちそうでした。毎回実感しますが、千町原の草原保全活動は、たくさんの方に支えられています。繰り

返しますが、安全第一に、そして楽しく続けていきましょう。次は春に火入れをします。また千町原でお会いしましょう。[このやよい]

※荒木則行さん、越岡真喜子さんには写真をご提供いただきました。ありがとうございます。



寒空の下に続々集まる参加者。雨が降りませんように。



集合してまずはご挨拶から、



白川学芸員より作業の説明。目的や内容をしっかり聞くことが大切。



暖かいいろりを囲んで、仲間とごはん。



刈られた草を集めて、運ぶ。意外に重労働。



キッズプログラムの今日の成果をご披露。はらっぱも一緒に。



草をどけて、防火帯の出来上がり。



おみやげのはらっぱ一大根を持って。さて、どう食べますか？

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 巣箱・かんじき作り

開催日時：2010年12月5日(日)10:00

集合場所：八幡高原センター

講師：暮町昌保・坂井健作

準備：工作ができる服装

定員数：30名

参加費：一般=300円

賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

材料費：かんじき1400円・巣箱400円

ヤマガラ・シジュウカラのおうちになる巣箱を制作します。材料はほぼ切っており釘を打ち組み立てます。かんじきは丸い輪のベースにひもを巻き付けていきます。きたひろしまの達人の認定を受けた坂井さんが丁寧に教えてくださいます。手作りの巣箱やかんじき、きっとすてきなものができますよ。



● 2010年度のイベント計画について

2010年度のイベントも残りわずかとなりました。冬ならではの観察会もお楽しみ下さい。なお、日程は変更になる場合がありますので、毎回の苅尾電波塔にご注意ください。

1月15日 冬を生きる動物達の生態

2月20日 雪山のトレッキング

3月19日 早春のトレッキング

未定 プッポウソウの保全



芸北には5つの小学校があり、各学校それぞれのテーマを掲げ、自然学習を行っています。美和小学校は“サクラソウ”，芸北小学校は“カタクリ”，雲月小学校は“雲月山”，雄鹿原小学校は“城岩やサクラ”，八幡小学校は“カキツバタ”といったものです。2校の学習発表会を見に行きましたが、自然を学びそれを表現して伝えることがしっかりできていました。学校の指導力、地域のサポート力を強く感じました。地域の子供が、芸北の自然の中でしっかり学べる取り組みを、支えていきたいとも思いました。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info